

第4回

骨粗鬆症は怖い病気です

転んだら大変なことに

骨粗鬆症の方が 転倒したとき

「関節外科専門医をめざして」を3回連載させていただきました。おかげさまで好評をいただき、読んだ後に私の病院を訪れていただいた患者さんも多く、「しばらくにあっぷる」を定期購読したいとの申し出も多数あったとのことでした。本当にありがとうございます。医師としてありがたい限りです。引き続き掲載の依頼がありましたので、さらに2回にわたり整形外科で最も受診される方の多い病気の1つである骨粗鬆症（骨がスカスカになる病気）の治療についてご紹介いたします。

骨粗鬆症は、年のせいだからしょうがない。と以前は言われてきました。確かに年齢には勝てません。誰でも骨は年齢とともに弱くなり、痛みが出てきます。日常生活では問題なく経過される方も多いのですが、一番困るのは転んだ時です。

骨が弱くなってしまうと、ちよつと滑って転んだだけですぐ骨折してしまいます。特に八戸のように雪が少なく道路がアイスバーンになっている時期には多数の方が

に係わる状態になることもあります。

大腿骨頸部骨折の 手術方法

当院では大腿骨頸部骨折の患者様が搬送された場合、即日に検査を行い、内科、麻酔科とも連携し、危険性を伴いますが積極的に早期に手術することを目標としております。股関節の遠い部分（図1 大腿骨頸部外側骨折）では骨をつなぐ骨接合術（図2）、股関節に近い部分（図3 大腿骨頸部内側骨折）では器械に変える人工骨頭置換術（図4）が行われます。現在では手術機械の進歩により術後は早期のリハビリが可能になってきました。早期に手術を行った場合には転倒前と同じ状態に改善する可能性が高くなります。

予防が大切

しかしながら、手術不能でそのまま寝たきりになることも多いのが現状です。しかもその状態で入院を引き受ける病院もなく、行き場のない状態になってしまう……悲しいながら現在の医療状況です。骨が弱くなることがいかに怖いかわかっていただけたでしょうか？ですから元気なうちに骨を強くしてちよつと転んだくらいでは折れない骨を作りましょう。予防が大切であることが学会でも強調されています。次回にその予防、骨粗鬆症になった時の治療法についての最新治療についてご紹介いたします。

FUJII KAZUAKI

藤井 一晃

ふじい かずあき

秋田県湯沢市出身
昭和63年 弘前大学医学部卒業、弘前大学整形外科入局
平成8年 博士号取得
平成11年 フランス留学
平成12年 八戸市民病院整形外科科長
平成16年 八戸平和病院整形外科科長



八戸平和病院整形外科科長
藤井 一晃

1 大腿骨頸部外側骨折



2 骨接合術



3 腿骨頸部内側骨折



4 人工骨頭置換術

